

2024年度(総合型選抜)AO選抜入学試験

経営学部「英語重視方式」

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際経営学科	76	33	23

(2) 本入学試験の目的

経営学部国際経営学科への入学を第1志望とし、「経営学に強い関心を持ち、高い意欲と目的意識を持って学習を行おうとする者」で、かつ「学部の掲げる人材育成目的・教育目標を理解し、立命館大学経営学部国際経営学科での勉学を強く志望する者」を対象に、英語運用能力により重点をおく入試選抜です。経営学部のアドミッション・ポリシーで定めた人材育成目標を達成し、本選抜による入学者が、国際的な経営を学習し、かつ海外に留学して英語を用いてビジネスを学ぶことを期待しています。

2. 試験内容

(1) 第1次選考

提出された出願書類（調査書、出願者申告書、英語外部資格試験証明書および志望理由書）に基づき、①高校在学中の正課、各種活動経験そして国際性、②英語運用能力、③志望動機、をそれぞれ評価しました。

高校在学中の正課は、調査書と出願者申告書をもとに、高校在学中の正課における学習姿勢や成績、課外活動としての各種委員会、部活動、地域活動、国際交流活動、各種表彰を評価しました。英語運用能力は、英語能力試験証明書に基づいて評価しました。志望動機は、国際経営学科で学ぶ意欲や志望動機、大学卒業後のキャリアの見通しについて、互いを関連付けながら、論理的かつ説得的に説明されているかどうか、を評価しました。大学企画への参加や、経営学部の教員の専門分野や教育内容の調査といった、立命館大学経営学部国際経営学科に進学後にどのような学習を行うのかについて、具体的に調べられているかどうかを評価の対象としました。

(2) 第2次選考

第1次選考の合格者に対し、出願書類（主に「出願者申告書、志望理由書等」）に基づく面接試験を日本語と英語で行いました。面接試験では、高等学校在学中の学習と各種活動経験、国際経営学科を志望した動機・入学後に学びたいテーマ、日本と海外での経営学分野に関する学習計画、国際的視野でのキャリアビジョンを、互いに関連付けながら論理的かつ説得的に説明されているかどうかなどを総合的に評価しました。とりわけ、国際経営学科を志望した動機や入学後に学びたいテーマ、国際的な経営学分野に関する学習の計画、国際的視野でのキャリアビジョンについては、日本語に加えて英語での質疑を行い、実際の英語運用能力を評価しました。

3. 出題の意図

(1) 第1次選考

第1次選考の書類審査では、経営学部国際経営学科で国際的な経営を学ぶために必要な基礎学力や外国語運用能力、国際経営学科での学習意欲が備わっているかどうか、さらに国際経営学科を卒業した後のキャリアについて深く考えられているかどうか、を評価することを目的としています。

具体的には、第1次選考では、提出された出願書類（調査書、出願者申告書、英語外部資格試験証明書および志望理由書）に基づき、①高校在学中の正課(学習面)と各種活動経験・国際性、②英語運用能

力、③志望動機について選考を行いました。①については、調査書と出願者申告書をもとに、高校在学中の正課(学習面)における学習姿勢や成績、課外における各種委員会、部活動、地域活動、国際交流活動、各種表彰を評価しています。②については、英語外部資格試験証明書にもとづいて評価しています。③については、本学経営学部国際経営学科で学ぶ意欲や志望動機、および大学卒業後のキャリアビジョンを評価しています。これらについて互いに関連づけながら論理的かつ説得的に説明されているかどうかを評価のポイントとしました。

(2) 第2次選考

第2次選考の面接審査では、上記書類審査の資料に基づき、高校での正課や課外活動を通じて、どのように英語運用能力を身につけたのか、英語学習の過程のなかで、どのようにして国際経営を学ぼうとしたのか、具体的に国際経営学科でどのような学習・研究を行うのか、卒業後のキャリアについてどう考えているのかを質疑で確認し、国際経営学科で学ぶ意欲や計画を学受験生自身の言葉で説明できるか否かも加えて総合的に評価しました。高等学校在学中の学習と各種活動経験以外は、英語を交えた質疑を行い、その応答の内容によって英語運用能力を評価しました。

4. 評価のポイント

(1) 第1次選考

在学中の正課については提出された成績証明書やGPAを、各種活動経験や留学経験については成績証明書に記載された委員会活動や部活動での貢献、ボランティア活動の有無を、留学経験については内申書や出願者申告書に記載された海外経験の有無を、それぞれ評価しました。英語運用能力は、提出された外部試験の得点に基づいて評価しています。志望動機については、出願者申告書と志望理由書に書かれた高校での活動と大学入学後、そして大学卒業後のキャリアが互いに関連し、明確な目標や目的があり、それを達成するために経営学部国際経営学科で何をしたいか、説得的に記載されているかどうかを評価しました。

(2) 第2次選考

面接審査では、英語運用能力を測るため、英語での質疑応答を行いました。そこでは流ちょうな英語で会話できることを重視するのではなく、自分の考えを英語で表現できているのかどうか、を評価しました。また、国際経営学科でどのようなことを学び、卒業後にその知識をどのように活かしたいのか、そう思うようになった高等学校での経験や取り組みについて、論理的な展開になっているかどうかを評価しました。

5. 解答状況

(1) 第1次選考

出願者申告書や志望理由書に関しては、高等学校在学中の体験や活動経験を志望理由と結びつけて書いている受験生が多く、また既に長期もしくは短期の海外留学、英語による討論会や模擬的な国際会議に参加した経験を有している受験生も多く見られました。外国の学校での学習経験がある、あるいはグローバルなルーツをもちながら日本国内の学校で学習経験をもつ受験生は、海外における様々な経験が記載されていました。第1次選考において主に合否を分けたポイントは、3つあります。

- ① 高等学校在学中の学習内容や、各種活動の体験・国際性が高校生として優れた水準であるか。外国の学校で学習経験がある場合も、それによって英語力を含む基礎学力が養われているか。
- ② 入学後に、各種留学制度等を利用し、海外での学びが実現できる英語運用能力を有しているか。
- ③ ①を礎とし、各自の語学能力を使って立命館大学経営学部国際経営学科で何を学びたいのか、さらに、国際経営学科での学びを通じ、どのようなキャリアビジョンを思い描いているのかが論理的かつ説得的に説明されているか。

高い評価を得た申告書や理由書は、一貫性があり、大学在学中や卒業後のビジョンが明確に記述されているものでした。高校在学中の学習内容、国際的な体験などが、志望理由にどのようにつながっ

ているのかが分かるようになっていました。しかし、一部の受験生は、アピールできる豊富な国際経験や非常に高い語学検定試験のスコアを持っているにも関わらず、本学経営学部国際経営学科のカリキュラムを十分に理解しておらず、将来のキャリアビジョンに結びつけて説明できていませんでした。他方で、オープンキャンパス等の大学企画に参加したり、経営学部の教員の専門分野やゼミをしっかりとリサーチしたりしたうえで、入学後の経営学部での学びをうまく設計できている受験生もいました。たとえ海外留学の経験がなくても、国際経営学科に対して高い意欲を持っている受験者はきちんと評価されています。

(2)第2次選考

面接試験では、出願書類(主に出願者申告書、志望理由書等)についての質疑に対して、適切な返答ができるかどうかを確認しました。高得点者に共通して多く見られた傾向は、将来のキャリアに関する具体的なゴールや目標が明確に決まっており、その目標到達に向けて、経営学部の教学内容や留学プログラムがどのように関わっているのか、卒業後にどのようなキャリアや経験を積んだ上でその目標に到達しようとしているのか、論理的で明瞭な説明ができた受験生が多かったです。

一方で、事前に準備してきた内容を一方的に返すような回答も一部見受けられました。予想される質問への答えを予め用意しておくことは重要ですが、この傾向が強すぎる受験生についてはコミュニケーションが成り立っていないようにも感じられました。しかし答えを予め用意していたとしても、面接委員の質問の意図をその場で理解し、自分の頭で考えたことを自分の言葉でしっかりと話しているように感じられた受験生は高く評価しました。回答に迷った場合も再度英語で質問したり、部分的に日本語での質疑も交えたりしながら対応できることが評価されます。最終的には第1次選考と第2次選考を合わせた総合的評価の高かった受験生を合格としました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

志望している学部が「経営学部」、学科が「国際経営学科」であることを強く意識していただきたいと思います。本学経営学部では、「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する経営学」という教学理念にもとづく教育研究を展開しており、国際経営学科では、在学中に「国際経営を教育研究し、高い教養と経営学の専門知識をもち、国際経営に関する問題発見ならびに問題解決能力、広い視野で異文化を理解し尊重する能力、国際社会で必要とされる相互理解能力を身につけ」たうえで、「『地球的視野』にたって、国際ビジネス社会において活躍すること」を期待しています。このような目標に向かって、立命館大学と海外の大学での学びを相互に有機的に結びつけた計画性を持ち、相乗的な学習成果をもとに国際ビジネス社会において活躍するキャリアビジョンを描いていただきたいと思います。

そのためには、まずは高等学校における学習を通じて、高等教育における基礎学力をしっかりと身につけると同時に、各種の体験や活動経験を通じて高い英語運用能力、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力を身につけていることが肝要です。確かな基礎学力と各種能力に立脚して、大学での国際ビジネスでの活躍を意識した学びや、将来のキャリアビジョンについて考えてみてください。

本AO選抜入学試験は、国際経営学科を対象とした英語重視方式ではあるものの、経営学部は英語を中心に学ぶことを目的とした学部・学科ではありません。つまり、経営学部における英語は国際的な企業の活動やビジネスの動向を知るための、かつ、各自が描くキャリアビジョンにおいてグローバル企業の最前線で活躍するための『道具(ツール)』であり、単に「国際=英語」ではないということです。したがって、志望理由としては英語が好きであるということや、留学体験や高校での英語学習のことだけに終始したり、入学できたら大学では「こんなことがしたい」「あんなことがしたい」といったことを列記したりしているだけでは不十分であり、高等学校在学中の学習内容や様々な体験もしくは活動経験を踏まえ、各自の語学能力を使って経営学部国際経営学科のなかで何を学びたいのか、また、将来、どのようなキャリアビジョンを思い描いているのかを互いに関連つけて説明することが重要だということです。そのためには、日頃から様々な企業がどのような活動や事業を展開しているのかに関心を持ち、身の回りの物事、新聞やニュースの報道について思いを巡らせ、疑問に思ったことを調べる習慣を持つことが大切です。加えて、特に第1次選考(書類選考)では、そのような習慣を通じて習得または蓄積された世の中の出来事や知識を自分自身の言葉で簡潔に、かつ、論理的にまと

める力がとても大切になります。したがって、基礎学力を反映する日本語の文章能力も本入学試験では試されるということを忘れないで下さい。

また、本 AO 選抜入学試験は英語の運用能力を重視したものであり、特に第2次選考の面接試験では、英語での質疑応答に対応できる語学運用能力の有無が合否を判断する際の要点になっているのは事実です。そのためには、各語学検定試験のスコアの向上はもちろんですが、それらに加え、リスニングやスピーキングの力を高めることを意識した英語学習への取り組みが求められます。ただし、第2次選考の面接試験では、必ずしも流暢に英語でのコミュニケーションが取れることを要求しているわけではありません。ここで重要なことは「経営学部国際経営学科で学ぶにあたり、自分の考えを英語で説明したり、質疑に答えたりする力」の有無であり、詰まりながらも、英語で自分の考えを説明したり、質疑に答えたりする能力になります。こうしたことから、本 AO 選抜入学試験の合格者は、留学経験者や語学検定試験の高得点者ばかりということではなく、留学経験のない受験生もいることも参考にしていただければと思います。